

宮城ゼミナール 2 回生

大阪商業大学 総合経営学部 商学科

田淵勇輝 藤田麻衣 工藤佳苗 塚野愛 川口詩寿歌 西村有貴 西田直登 寺澤俊 宮本和朋

活動内容・目的

フィールドワークを通じて、宿泊業の魅力向上の方法、地域活性化策について学んでいます。現在、興味を持って研究を行っているのが有馬温泉についてで、そのテーマとして「有馬温泉の観光・宿泊の現状」について調査しています。調査プロジェクトとして、アンケート班とインタビュー班に分かれて調査を行いました。その内容としては、現地へ行き観光客の方へのアンケート調査の実施や旅館、市役所の方々へのインタビューを行いました。これらの調査内容をまとめ、浮かび上がった課題や問題点をさらに追及して、有馬温泉のさらなる活性化に貢献できるよう日々研究しています。

アンケート班

調査日：2013年12月15日

場所：有馬温泉駅周辺および有馬町周辺

対象：有馬温泉を訪れた観光客 101人

目的：有馬温泉を訪れる観光客の動向を調査、現状を把握し、有馬温泉の魅力を発信していくための基礎調査

調査項目：年齢、性別、宿泊費、利用した交通機関
満足した点、不満だった点など

調査結果

- ・性別と年齢 女性が約6割 男性が約4割
60代以上の男性の割合が非常に少なく、その他の年齢層はあまりばらつきがない
- ・宿泊費 3万円以下が大半を占める
7万円以上は2人
- ・満足した点 温泉街ならではの風景や街並みで、宿泊施設や食事なども満足度が高い。特に食事では有馬温泉名物の炭酸せんべいや酒饅頭の人気が高かった。
- ・不満な点 不満な点があったと答えた方は全体の約20%であり満足度が高いことが分かる。また、不満な点として特に多かったのは
1、駐車場が少ない
2、公衆トイレが少ない であった。

インタビュー班

実施日：2013年12月1日

場所：兵衛向陽閣

経営企画室長 上月康暢さん

目的：有馬の宿泊業について現状や課題、地域との繋がりを調査

調査結果

・宿泊客

年間来客数 約15万人

40～50代の方が多く見られる

10月から12月の中旬の紅葉シーズンがピーク

・売上推移

年間売上規模 33億円

売上の約3%が外国人宿泊客

国民性文化の違い

・問題点

外国人の宿泊客がお風呂や廊下で騒ぐなどのことから、日本人の宿泊客からクレームが付きやすい

海外のお客様に力を入れてないわけではない!!!

・韓国・台湾・中国・フランス・ルーマニア・ドイツのスタッフを用意し対応している

・外国人向けのイベントも開催している

今後の課題・活動

今後の課題として、観光面では、60代以上の観光客の割合が非常に低く、特に男性の割合が低いこと。不満点の多くが駐車場や公衆トイレ、ゴミ箱など温泉街の周辺施設にあること。宿泊業では、近畿からの観光客が多く、日帰り客や一泊のみの宿泊客が多くそのため宿泊費で多くの利益を出すことが難しいことなどが課題として挙げられる。

ゼミの活動としては、これらの課題をさらに追及し理解を深め、イベントの考案などをして改善策を練っていくとともに、有馬温泉街の旅館が企画するイベントへの参加、有馬温泉ゆけむり大学の活動への参加などもしていく方針である。